

広 報

分水嶺



庁舎

第 30 号

平成 21 年 3 月

岩手北部森林管理署
岩手県八幡平市荒屋新町 41-8
050-3160-5895

「地域にとって有って良かったと思われる署を目指して」

昨年の4月に大阪の近畿中国森林管理局から岩手北部森林管理署に来て、1年が経とうとしています。メタボ解消のため毎日歩いています。



署長 春原 武志

さて、「地域にとって、有って良かったと思われる署」とは、一体どんな署なのでしょう？

管内の森林は、米代川・馬淵川・北上川の上流域にあり、国土の保全、水源のかん養のほか、二酸化炭素の吸収源として重要な役割を果たしています。しかしながら、美しい森林を支える林業・山村の元気がなくなり、間伐などの手入れが不足した森林が増えたことから、最近、「荒れた山が多くなり、悲しくなります」との声が聞かれます。

確かに、「木材の値段は安い→林業は儲からない→山の仕事がない→山で働く若い人達がいなくなる→山村から人がいなくなる→山村の元気がなくなる→山の手入れをしない→山が荒れる」という流れが長い時間続いていますが、果たしてこのままで良いのでしょうか？

林業・山村が厳しいのは事実ですが、管内には、安比・稲庭・奥中山・葛巻高原など素晴らしい自然環境があります。また、カラマツなどの森林資源も着実に増加しています。そのため、岩北署では、馬淵川上流部の林業を、山村を元気にして、この美しい森林を守り育てて、未来に引き継いでいく取組みを今後とも積極的に進めています。

春を待つ^{もり}森林たち！



早春のカラマツ林



早春のブナ林

注意
喚起

4月1日から新たに無災害目標が設定されます
気を引き締め無災害を継続しましょう。
無災害目標 2, 353日(平成22年3月31日まで)

1 低炭素化社会の構築を図る！



列状間伐材森林施業モデル林

低炭素化社会を実現するためには、まずは、二酸化炭素をたくさん吸収する元気な森林を守り育てる必要があります。当署管内には、約3.3万 ha の森林があり、人工林と天然林の割合はほぼ半々です。天然林については、保安林などに指定して、将来も森林としてしっかりと守られるよう、保護・管理をしています。

また、人工林については、間伐などの手入れをしないと十分に木が成長しないので、二酸化炭素も吸収しません。

そのため、京都議定書の第1約束期間である平成24年までに集中的に森林整備を行っており、平成20年度は、除伐や間伐、本数調整伐などの森林整備を約1千ヘクタール実施しました。今後は、二酸化炭素を吸収する元気な森林がどのくらい整備できたのかが、地域に皆さんに感じてもらえるように工夫してみたいと考えています。

2 林業の再生を図る！

林業が元気になるためには、木が高く売ればよいのですが、木材の約8割が輸入材である以上、木がこれ以上高く売れることは難しいのが現状です。今の値段の中で、再生産に必要な利益をあげるには、コストを下げる必要があるのですが、高性能林業機械と作業路を合わせた効率的な作業システムの普及が求められます。一方、作業路をたくさん作ると森林が荒れるという話もあり、事実、傷だらけの山も多く見られます。そのため、壊れにくい作業路の作設に取り組んでいます。

また、利益が出るためには、できるだけ捨てる部分を少なくし、木質バイオマスエネルギーや間伐紙としての利用を進めていくことが求められています。当署の玄関フロアーでは、葛巻町のペレットを使って、暖かくして、地域の皆さんをお待ちしています。



作業路の状況

3 安全・安心な山村の実現を図る！

治山工事は、昨年6月の岩手・宮城内陸地震でも明らかなように、地域住民の生命、財産を守る上で、重要な役割を果たしています。当署においても、山地災害の危険性の高い箇所を早期に解消していくことを目標に、平成20年度は、智恵沢、赤川、兄川、杉ノ沢地区で4件の治山工事を行うとともに、田山地区の調査を実施しました。これらの治山工事は、奥山でやっているのですが、普段は目に付きませんが、下流に住む多くの人達に知ってもらうことも重要です。そのため、田山・安代両小学校の5年生を対象とした森林教室では、建設中の治山堰堤に登ってもらい、山崩れを防ぐ作業を肌で感じてもらいました。

また、自然環境に調和させるとともに、二酸化炭素を木材の形で長く貯蔵するため、残置型木製枠工法を積極的に採用しています。



間伐の型枠を使用した赤川の治山堰堤

林道は、美しい森林を作るための森林整備を進めていく上で、重要な施設です。また、山火事の消火や山地災害の復旧作業などの緊急時での作業や国道や県道の迂回路としても大きな役割を果たします。

このほか、山菜取りや登山など森林レクリエーションを楽しむためにも必要な施設です。このため、安全に通行できるように林道をしっかりと整備しておく必要があることから、平成20年度は、白沢、田沢・田沢杉ノ沢、尻高、大多利林道での災害復旧工事、御山、鍋越沢、茂谷地林道での改良工事、七時雨林道の新設工事を実施しました。今後は、民有林と連携して、美しい森林づくりを進めるための林道の整備も進めていきます。



七時雨林道新設工事

4 豊かで多様な森林を活用した地域振興への寄与を図る！

八幡平市の安比高原は、人と家畜が長い時間をかけて作った草地景観が特徴ですが、放牧が行われなくなってから、少しずつ草原が減少しています。そのため、八幡平市と「あっぱ高原遊々の森」を設定し、かん木の伐採に取り組んだ結果、夏には、ヤナギランの群落美しい花を咲かせ、多くの人達の目を楽しませてくれました。当署では、地域の皆さんと協働して、多くの人達がゆっくりと自然に親しむ場として、ブナ二次林と一体的な整備を進めています。



ヤナギランの群生

二戸市には、全国にも珍しいウルシの分収造林があります。ここ数年、日光東照宮などの文化財の修復のために脚光を浴びている、浄法寺漆の振興に寄与できればと考えています。一戸町平糠地区の北限のイヌブナ群生林、葛巻町の風力発電施設に隣接した森林など、管内には豊かで多様な森林がありますので、地域の皆さんと連携して、これらの資源を活用した地域振興への寄与に取り組んでいます。

平成20年度の安全を振り返って

平成20年度は金融等の問題から未曾有の不景気、油類の高騰、度重なる不祥事から全ての契約が一般競争入札また、農林水産省改革のための各種の取組み、署においては、19. 9. 17豪雨災害に絡む災害復旧工事が行われるなど非常に忙しく慌ただしい1年でした。

さて、「管内では絶対に災害を起こさない」を合い言葉に、直営事業、請負・立木販売等において安全対策を講じてきましたが、残念ながら、請負事業者による災害が3件発生しました。

また、直営事業では蜂刺され1件、熱中症と思われる疾病が1件発生しました。幸い軽症で済みましたが、蜂刺されも、熱中症も一歩間違えば重大な災害となることから、普段から蜂に刺された場合の対応、熱中症に罹患した場合の対応などをみんなでよく話し合い、自分のこととして予知訓練をしておくことが重要であると考えます。

平成20年度もあとわずかとなりましたが、不景気の波にのまれずお互いに元気で明るく楽しく仕事していきましょう。

- 9. 8 生産事業 伐倒作業中ためられたスギによりチェーンソーがキックバック
- 10. 9 林道事業 床掘り中 土砂崩壊による事故
- 10. 28 造林事業 保育間伐 伐倒作業中 刈払機のキックバックによる事故



次長 鈴木 修治

平成20年度の主な取組

安全大会を開催しました

平成20年7月1日(火)荒屋公民館にて安全大会を実施しました。

署長からは、これまでの経験を生かしつつ、職員一人一人が労働安全について「考え」「話し合い」「実行する」ことにより職場に潜む危険を摘み取っていきましようとの訓示がありました。



新町班代表による安全宣言

また、外部講師による安全講話では、「安全と挨拶」と題して、挨拶がきちんとできていれば災害が少ないことや、ゼロ戦のお話、視覚に関するお話など、普段聞くことのできない安全に関する話題を沢山聞くことができ、皆様の安全に対する意識も変わった事と思います。

安全標語の募集には、皆様から29作品の応募があり、厳正な審査の結果、「安全は一人一人の心構え経験よりも作業基準」が最優秀賞に選ばれました。

入札公告のため掲示板を設置しました

総合評価落札方式の導入や造林・生産事業の一般競争入札への切り替えなど、入札制度が大きく変わった年となりました。入札公告が多いときは14～5件となることから、外の掲示板では公告しきれないため、庁舎玄関の正面に掲示板を設置して、来庁者などへ見やすいように工夫しました。

豊かで多様な森林を活用した地域振興へ

森林教室を開催

「あっぴ高原遊々の森」を中心に延べ10回の森林教室を実施しました。成果が学習発表会で発表されました。

この取り組みは地域発案システムの「森林環境教育の推進」として継続的に取り組みを行っています。

今後の課題としては、森林教室の回数が多くなってきていることから、これに対応する講師をどのように養成していくかが課題となっています。



木登りを楽しむ生徒

植樹祭の開催



苗木の添木打はたいへんだ

県境を越えた森林作りに取り組みました。

平成20年6月20日(金)に岩手県米代川漁協、秋田県米代川三漁協、米代東部森林管理署との共催により植樹祭を開催しました。

漁協関係者、田山小学校6年生ら120名が参加し、トチノキやミズナラ等140本を植樹しました。この取り組みは平成14年度から岩手県側、秋田県側とが交互に実施しているもので、取り組み内容が両県の新聞に掲載され、国有林のPRに役立っています。

安比高原でイベントを開催

平成20年10月30日(木)八幡平市と共催で市民ボランティア等70名の参加を得て、「あっぴ高原遊々の森」でかん木の刈払い等の環境整備を行いました。また、今後のイベントのあり方や方向性について、参加者と意見交換会を行いました。

この取り組みは、新聞に掲載されたことから国有林の取り組みが県民に理解されています。



環境整備をする参加者

二酸化炭素タワーで説明会を開催



タワー前で
説明を聞く職員

平成20年9月5日(金)安比岳国有林内の森林総研東北支所と当署で共同研究を行っている「安比二酸化炭素動態観測共同試験地」の現地において、当地で研究を行っている森林総研東北支所から3名の講師、当署から15名が参加し説明会を開催しました。

開催目的は、参加した森林官をはじめとする職員が共同研究の意義を理解することにより、研究者との交流を促進できること、また、職員の一人一人が広報マンとしての取り組みを始めることができるきっかけとなることなどで有意義な説明会となりました。

民・国連携した間伐現地検討会を開催

平成20年11月19日(水)二戸市浄法寺町筍平地内の民有林において、馬淵川上流流域森林・林業活性化センター主催の「間伐講習会」を開催しました。

当日は雪の降る悪条件の中でしたが、当署からは10名が参加、総勢35名が参加し、「グラップルとソリ」を組み合わせた集材・運材方法について意見を交換しました。

当署からは「効率的・効果的な間伐をして、馬淵川上流の森林を『美しい森林』に！」の資料を配付し説明をおこないました。



雪が降る中での開会式

素材・立木販売に関する意見交換会を開催しました



熱心に説明を聞く出席者

平成20年4月26日(木)素材・立木販売意見交換会を開催しました。関係業界から20名が出席し活発な意見や要望が出されました。主な意見・要望は①立木販売の販売時期について②広葉樹材の生産について③列状間伐の実績・コストについて④一般競争入札の参加資格についてとなっています。関係者からは、販売の計画が早くわかれば計画を立てやすいので、来年度以降も続けてほしいとの要望が出されました。

安比岳国有林内の歩道を整備

平成20年7月、保護林保全緊急対策事業として、安比歩道の補修をおこないました。

安比歩道(5.9km)は小崩壊地が発生しており、登山者等から補修してほしいとの要望があり実施したものです。

資材の運搬は全て人肩による運搬となり、作業者には約20kgを背負っての現地までの移動となり大変ご苦勞をおかけしました。

歩道を補修したことにより、登山者やトレッキングをする人は、利用しやすくなったと考えています。



完成した歩道

健康コラム

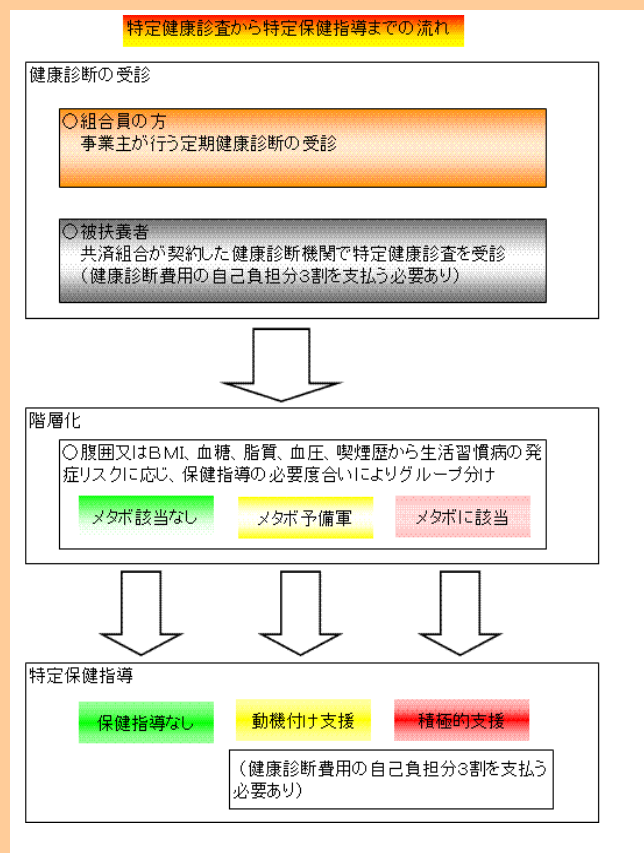
コラム

今年度からメタボリックシンドロームに着目した「特定健康診査・特定保健指導」が始まりました。

これは、40歳から74歳の組合員及び被扶養者の方を対象にメタボリックシンドロームの該当者と予備軍を減少させることを目的に行われました。

メタボリックシンドロームでは、10年後の虚血性心疾患(狭心症や心筋梗塞)の危険度が、正常な人に比べ36倍も高くなるといわれています。無症状でも、運動負荷心電図により虚血性心疾患の有無を調べたほうが良いでしょう。

(Yahoo 家庭の医学より)



4月 行事予定

- 1日(水) 辞令交付
- 〃 事業説明
- 〃 安全指導
- 7(火) 健康診断
- 15(水) 素材・立木販売意見交換会
- 27(月) 安全衛生委員会

